

えひめ地域づくり研究会議の 取り組みについて

「えひめ地域づくり研究会議」は、県下各地の地域づくりに関わりを持つ人が自由に交流、学習・研究できる組織として、1987年に発足しました。（現在会員は約150人。地域づくりに関心を持つ人であれば誰でも参加できます。）

発足以来、地域づくりに関する各種フォーラムの開催や、機関誌「風おこし」の発行等の活動により、人と情報のネットワークを広げております。

また、今年1月の年次フォーラムでは、「継続する力」と題して、岡田文淑氏、亀岡徹氏、若松進一氏といった3人の愛媛の先駆者から地域づくりの理念を伺いました。

今回は、そのような活動に取り組んでいる研究会議の森田事務局長に「地域づくり」への熱い思いを語っていただきます。

今こそ「風おこし」のちかい

「えひめを愛しそれぞれのまちむらに生きる我ら同志は、まちむらのために新しい未来を自らの力で啓くべく、心に希望の灯をかがげ、学びあい結び合いながら、よりよい明日に向かって地域づくりの風おこしとなることをちかう」

我々が「風おこし」のちかい」と呼ぶこの理念を何度も何度も読み返す。これまででも今からも、ここ「ふるさと愛媛」に住む我々の生き様としての姿が描かれているとは思えないだろうか？

地域づくりの原則は「やりたい、やろうと思う人が、やりたいように、やれることをやる」のだから、責任者は自分。予算は自分の責任の持てる範囲。そう考えると話は難しくはない。

しかし24年も経つと組織ではなかなかそうはいかない。以前はどうだったとか、誰々はどうしたとか、様々ながらみに縛られる。組織を維持するため、面子を保つための議論も出始め、「お金（予算）が少ない」とか「誰も手伝ってくれない」になり、「誰も何も言わない」「やらない」に陥る。

2007年に作った「創立20周年記念誌」を手にとる。錚々たる方々から「先駆的な愛媛の取り組み」として称えられ、これからの20年を期待されている。が、このままでは期待に答えられない。

では、どうすれば活性化できるか？「会



えひめ地域づくり研究会議
創立20周年記念誌

員を増やそう、会費の徴収をしつかりやろう、活性化委員会を組織しよう……」
いやどうもしない。「風おこし」のちかい」にあるべく、心に希望の灯をかがげて学びのネットワークを構築すればよいのだ。原点に帰ろう。ただそれだけだ。

今年のテーマは

「復活・復興 ～更なる発展のために～」

3・11。未曾有の大震災に遭遇した。さらに、人災とも言える原発事故も収束できない。幕末、大戦後以来の三度目の岐路に立たされているときえ言われる。今後「脱原発」をはじめ、低炭素社会の実現など以前から言われ続けたことに直ぐ取り掛からなければ、我々は自分たちが作り上げてきた社会水準を維持できなくなる。さらにエネルギーを使い放題に使ってきた現代人の生活様式を根本から見直さなくてはならない時がきた。

幸いにも今回は愛媛には直接の甚大な被害はなかった。しかし、このような災害は他



人事ではない。いつかは我々にも直接降りかかってくる。これまでどこか他人事であった、「防災」への対応を急がなければならぬ。今、一人一人が「みんなのために何ができるのか」を自らに問い、考え、行動しなければならぬ。また地域みんなまで確認する作業も大切だ。早速はじめよう。これこそが「まちづくり」である。

震災を受けた地域は、地域社会全体で支え合いの精神を取り戻し、必ず復活する。そのための支援や協力を惜しまず、我々が愛媛の地で元気に頑張っている姿を見せたい。今こそ愛媛も「地域社会の復興・復活」する時。



地域別活動者集会 (写真は2010年度実施分)



総会フォーラム (写真は2010年度実施分)

人任せにはできない。またこの国には、農業も漁業も林業も絶対必要だ。そのためにあらゆる力をつけておこう。今はその時期といえる。

愛媛の地域づくりをリードしてきたと自負のあるこのえひめ地域づくり研究会議。よりよい未来のために、がんばろう日本、がんばろう愛媛、がんばろうまちづくり人。

そして我々は、このような「今」だからこそ、再度県下のあちらこちらで狼煙を上げ、風をおこす人になりたいと思う。

今年度の主な事業 (予定)

- 情報誌「風おこし」発行 (年2回/活動報告、会員の活動紹介等)
- 地域別活動者集会 (随時/県下各地でネットワーク構築)
- 総会フォーラム (24年1月/会員が一堂に会する年次フォーラム)
- 運営委員会の開催 (2月に1回/運営方針を協議)

入会等のお問い合わせは

えひめ地域づくり研究会議事務局
(助えひめ地域政策研究センター内) まで
TEL:089-926-2200 FAX:089-926-2205
http://www.ecpr.or.jp/community/?page_id=11



情報誌「風おこし」